A3（W297×H420mm）　2022.09.12　2校

令和５年産

ちくしW2号栽培ごよみ

三井地区農業振興協議会
ＪＡみい
久留米普及指導センター

ラーメン用小麦　福岡県産

喜ばれる「福岡の麦」づくり運動

1. 播種前契約麦の作付励行
2. 種子更新
3. 土壌診断に基づく「土づくり」の実践
4. 適期適量播種
5. 麦踏み・土入れ・除草・排水対策の励行
6. 追肥・穂揃期追肥の実施
7. 赤かび病防除の徹底

高品質麦の安定栽培のポイント

1. 収穫時期がシロガネコムギ・チクゴイズミと近いため、播種時期を11月15日から11月20日と致します。
2. タンパク質含有率12%以上を確保しランクの高い交付金を獲得します。穂揃期追肥の適期に、適正に施用することを必須とします。
3. 集荷は、八坂カントリーのみと致します。

月	11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月	
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
生育相		播種期	分げつ期										幼穂形成期			出穂期	登熟期間				成熟期		

時期別作業

- ○除草剤の散布（播種直後）
- ○基肥の施用
- ○種子消毒の徹底
- ○土壌改良材の施用
- ○二度ずきによる深耕
- ○弾丸暗渠
- ○麦踏み（3回以上）
- ○土入れ（3回以上）
- ○ハーモニーDF
- ○バサグラン液剤
- ○1回目追肥（排水溝の設置）
- ○2回目追肥
- ○排水溝の整備・点検
- ○赤かび病防除（2回目）〔1回目防除の7～10日後〕
- ○赤かび病防除（1回目）〔出穂後7～10日〕
- ○穂揃期追肥
- ○適期刈取り（水分25%以下）

●品質基準が設定され、①タンパク質含有率②灰分③フォーリングナンバー④容積重の基準を下回ると生産・品質に基づく支払い単価が変わります。そのため栽培管理として追肥の徹底と基本技術の励行が重要です。

1. 土づくり

土づくりを実施して麦の収量・品質向上を目指しましょう。

（1）適正なpH（6以上）を維持するために、ミネラルG又は珪鉄を10a当たり200kg施用する。また土壌の酸性が強いほ場は、10a当たり炭酸苦土石灰200kgを目安として施用する。

（2）稲ワラ還元及び大地めぐみちゃん（1t/10a当たり）の施用

（3）深耕（作土深15cm目標）

2. 優良品種の作付けと種子更新

品質の良い、喜ばれる麦づくりと種子伝染性の病害の発生を防ぐため、毎年100%の種子更新を行う。

3. 排水対策

湿害を受けやすいので、ほ場内に停滞水を生じないように排水対策が必要です。

（1）有材暗渠　（2）弾丸暗渠（基準2m間隔）　（3）畦立て及び排水溝の整備

4. 適期・適量播種

（1）播種適期　11月15日～11月20日

（2）播種量　・ドリル播き・・・・7kg（10a当たり）
※厚播きは倒伏しやすく、品質低下しやすい。大豆の後作は播種量を減ずる。

（3）播種深度
適正深度　2～3cm（大豆の後作は、深播きになりやすいので、注意する。）

5. 種子消毒

裸黒穂病・なまぐさ黒穂病・ヤギシロトビムシ対策

ベンレートＴコート50g　（0.5%）
劇アドマイヤー水和剤15g　（0.15%）
} 種子10kg当たり種子粉衣

※ヤギシロトビムシ多発生ほ場
ベンレートTコート50g　（0.5%）種子粉衣
クルーザー FS30 60mℓ　（0.6%）塗沫処理
} 種子10kg当たり

6. 施肥基準（穂揃期追肥は必須）

（10a当たり）

施肥体系	基肥		追肥 1回目（1月中下旬）		追肥 2回目（2月下旬）		穂揃期追肥（出穂7～10日後）	
Ⅰ	ちくごのめぐみ 444 （14－14－14）	40kg	硬質小麦専用追肥3004 （30－0－4）	30kg	なし		硫安	15kg
Ⅱ			NK化成２号 （16－0－16）	30kg	NK化成２号 （16－0－16）	10kg	硫安	25kg

※大豆作あとの基肥量は、基準より約５割減とする。又、追肥は生育に応じて加減する。
※穂揃期追肥に尿素を葉面散布する場合は、施肥体系Ⅰでは3.5kg/100ℓ、施肥体系Ⅱでは5.4kg/100ℓを出穂７日後と14日後頃の２回散布する。

●農薬の安全・適正使用、飛散防止の徹底！
※農薬の登録内容は随時変更されます。農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。
※農薬の散布時は、風向きに注意し、農薬が周辺作物へ飛散しないように注意しましょう。

7. 除草剤使用基準

区分	除草剤名	処理方法（10a当たり） 使用量	希釈水量	散布時期	対象雑草	使用上の注意
初期除草剤	リベレーターフロアブル	60mℓ～80mℓ	100ℓ	播種後～麦3葉期	初期に発生する一年生雑草	1. リベレーターフロアブル及びリベレーターGの使用により麦の葉身に白化や黄化等が見られる場合がありますが、その後出てくる葉には認められず回復します。 2. 除草効果を高めるため土塊は小さくして鎮圧しは種後早い時期に散布する。 3. 覆土は3cm程度とする。 4. 散布後の大雨は薬害を生じる恐れがある。 5. 風向きに注意して散布しましょう。 6. 飛散の少ないノズルに交換しましょう。
	ムギレンジャー乳剤	400mℓ～600mℓ		播種後出芽前		
	リベレーターG	4～5kg	－	播種後～麦2葉期		
	キックボクサー細粒剤F	3～4kg		播種後出芽前		
中期除草剤	ハーモニーDF	5～10g	100ℓ	1月上旬～2月中旬頃 麦1葉期～節間伸長前	一年生広葉雑草（ヤエムグラ4節まで）及びスズメノテッポウ5葉期まで	1. 隣接田の野菜・豆類にかからないように注意する。 2. 麦が黄化することがあるが、後で回復する。 3. 使用後の散布器具は消石灰による規定の洗浄を行う。 4. 除草剤抵抗性スズメノテッポウが増加しているほ場では使用しない。 5. トゲミノキツネノボタンに効果が高いので発生圃場で散布する。
	バサグラン液剤	100mℓ～200mℓ	70～100ℓ	生育期（但し、小麦は収穫45日前まで、大麦は収穫90日前まで）	一年生広葉雑草（イネ科を除く）	1. カラスノエンドウに効果がある。（6葉期まで） 2. トゲミノキツネノボタンに効果が高いので発生圃場で散布する。

※雑草防除のポイント
●初期除草剤は、雑草が発生する前に散布し雑草の発生を抑える。
●生育期間中は、中期除草剤または、耕種的防除（土入れ）を組み合わせて雑草の防除を行う。

8. 赤かび病防除基準

散布時期	薬剤名・使用量/10a当たり			使用回数	使用時期
1回目 開花期（出穂後7～10日） 2回目 1回目防除の7～10日後	粉剤	トップジンＭ粉剤DL	4kg	出穂期以降 2回以内	収穫前 14日まで
	液剤	トップジンＭ水和剤	1000倍（水100ℓに100g）		

※ちくしW2号は、赤かび病に弱いので、2回防除を徹底する。
２回目防除は、１回目防除の７～10日後に行う。

9. 収　穫

品質確保と作業の効率化を図るため、穀粒水分が25%以下となった時に収穫する。

品種特性表（JAみい調査データ）平成29年～令和3年産の5カ年の平均値

品種名	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 ㎡当り	栽培上の留意点
ちくしW2号	4/1	5/25	84	9.2	482	赤かび病に弱い。高タンパク質含有率確保のため穂揃期追肥を実施する。

※栽培履歴（管理日誌）はご記入の上、提出してください。

（令和4年9月作成）